

トラックー

キャラクター感：無愛想で気だるげな感じ

人間にはまだ良い印象がないため少し攻撃的。

攻撃的で気だるげだが、立场上最低限の礼儀はある。

SE:インターホン

【位置：中 距離：中】

(先ほどまで居留守を使われ、反応が無く諦めてたところ)

(事前に通達済みであるはずなので、認識違いから始まる)

……あ、ども。こんにちは。

私、エトワールから来たセリシアって言うんですけど、

この家の持ち主ってお兄さんであってます？

ん。よかったです。

お兄さん、すぐく戸惑ってるから、別の家なのかと……。

えと……。

もしかして、お話行っていないんですか？

私達サキュバスと、お兄さん達人間が、友好条約を結んだって話。

(気だるそうに)

はあ……。

その様子だと、一から説明する必要があるそうですね……。

分かりました。

では、説明します。

面倒なので、一度で理解していただけると、助かります。

くだるそうな感じの説明口調

【位置：やや右】

ふう。

じゃあまず、サキユバスというのは分かりますか？

……はい、そうです。生物に淫夢を見せ、精液を主食とする種族。大体そんな感じです。

それで、そのサキユバス、私達が生活している国が、エトワール国。

尤も、人間からは、国ではなくあくまで自治領という認識らしいですが。

ええ。自治領。

かつて私達と人間は長い間戦争を行っておりまして。

科学兵器で攻め込んできた人間によって、私達は国を追われたんです。

(感情はそこまで出さない)

……はい？

そんな歴史は知らない？

まあ、そうですね。

人間は都合よく歴史を改ざん習性があると聞いていますし……。

はあ……。

で、友好条約についてですが。

最近になって人間は私達の能力に目をつけてきたんです。

精エネルギーを媒体として、概念を具象化する能力。

例えば、そうですね。

【位置：右】

ほら、あそこを見てください。

お兄さんの部屋に炎を反映してみました。

(主人公の大きな反応に少し困惑)

えっと、そんなに焦らないでください。

これは可逆的な現象ですから。

【位置：やや右】

ふう……。

で、この能力は、人間が追い求めていた錬金術を可能にするとともに再生可能で効率的なエネルギーになりうるとして、交渉があったのです。

精液を供給する代わりに、自分達の労働力になってくれ。

自分達と共に暮らしてくれ、と。

全く、勝手な話ですよ。

もとより人間が、私達を追いやらなければ良かったというのに……。

でも、私のお父様は吞んでしまいました。

人間の強引な要求を。

私達は、今。

かつて貯蓄していた精液が不足し、絶滅の危機にありまして。

まあそういう状況だからこそ、今更になって接触してきたのでしょうか……。

ですが。

今の関係のまま、その交渉を吞むことは、国民からの反発が予測されますから。妥当性を示す為に、王妃である私が人間との関係を持つこととなったのです。

(ここだけ少しトーンを抑えて、独り言のように)

……いわば見せしめとして。

ということ、お兄さんがこれからすることは、もう理解できたでしょうか。

はい。

私の身体を使って、性欲を発散してください。
お兄さんの精液を、私の中に恵んでください。

それに、ここに来るにあたって、お兄さんの話しは伺っています。

お兄さん、サキユバスとか、好きですね？

先ほど私が聞いたとき、やたらと雄弁に語っていましたし。



【位置：中】

大丈夫です、恥ずかしがらないでください。

むしろその方が、精液も出しやすいでしょうから。

私も助かります。

私達の関係はただ、精液を吐き出すためだけの関係。

それ以上の、性格、人格、パーソナリティーについては範囲外ですから。

まあ、行き過ぎであれば困りものでしたが。

お兄さんはそうでもないようですし、その点では安心しました。

ということとで、これからよろしく願います。

お兄さん。